

水稲育苗箱専用長期持続型殺虫殺菌剤

ビルダー[®] プランス[®] 粒剤

フィプロニル (PRTR・1種)..... 1.0%
 プロベナゾール..... 10.0%
 鉱物質微粉等..... 89.0%

農林水産省登録 第20711号

毒性 普通物 有効年限 5年 包装 1kg × 12袋

(地域限定)

●特長

1. 育苗箱施用で、水稲初期・中期の主要病害虫であるいもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、イネクロカメムシ、ウンカ類等を同時に防除できます。
2. 育苗箱当り50g施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

●適用病害虫および使用方法




作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 ウンカ類 コブノメイガ イネドロオイムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する
	白葉枯病 もみ枯細菌病 ニカメイチュウ イネミズゾウムシ イネツトムシ イネクロカメムシ		移植3日前～ 移植当日		
フィプロニルを含む農薬の 総使用回数			プロベナゾールを含む農薬の 総使用回数		
1回			2回以内 (移植時までの処理は1回以内)		

(平成28年7月6日現在の登録内容)

●効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植する。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさける。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生ずるおそれがあるので、必ず健苗に使用する。
- 処理苗を移植する本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意する。
- 処理苗を本田に移植した後は、そのまま湛水状態(湛水深3~5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意する。
- 本田が砂質土壌、漏水田、未熟有機物多用田では使用をさける。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさける。
- 本剤は処理を誤ると、生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生ずるので、所定の使用時期、使用方法を守る。
- 有効年月内に使用する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

●安全使用上の注意

- 皮ふに付着しないように注意。皮ふに付いた場合は直ちに石けんでよく洗い落とす(弱い刺激性)。
- 散布時は、農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用する。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをして、衣服を換える。 
- 作業時の衣服などは他と分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しない。施用した作物などに触れない。

- 夏期高温時は使用しない。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収する。
- 移送取扱いは、ていねいに行う。

治療法…フィプロニル剤にはフェノバルビタール製剤の投与が有効(動物実験で報告)。

魚毒性等…使用した苗は養魚田に移植しない(魚類)。

保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

火災時の…火災時は適切な保護具を着用し、水・消火剤で消火に努める。
措置